
第4章 むすびに

北見市は、旧北見市、端野町、常呂町、留辺蘂町の1市3町が合併したことで、全国4位の広大な行政面積を持つ自治体となりました。旧市町ごとに使用していた庁舎や集会施設など様々な公共施設を保有しており、居住地が広域に分散しているため効率化することが難しく、人口1人あたりの公共施設延べ床面積は道内各市と比較して大きくなっています。

近年は病院改築支援や社会教育施設の建設など公共施設建設が集中しています。しかし市の財政状況を見ると、人口減少と少子高齢化に伴う歳入の減少が見込まれており、今後は厳しい財政運営を迫られる可能性が高くなっています。

現在、北見市が保有する公共施設は約1,900棟、延べ床面積は約860,000㎡にのびます。昭和55年前後に建てられた施設が多く、建築後30年以上が経過することから、今後は大規模修繕や建て替えなど多大なコストを必要とすることが予想されます。

全ての公共施設を保有し続けると、今後の財政に大きな負担を生じることから、保有する公共施設量の削減（統廃合、再配置、複合化など）やコストの抑制（管理運営方法の見直し、長寿命化等）の検討が必要です。

この白書で示した公共施設の現状と課題の把握をスタート地点として、今後、持続的・効果的に利用可能な公共施設の再配置や効率的な管理運営方法について、市民の皆様と一緒に検討し、公共施設の利活用を図っていきます。